キリストと反キリストについて

ヒッポリュトス
藤遥　制作

1〜5章　序

1:1 わたしの愛する兄弟テオフィロスよ、あなたは、わたしに示した問いの要点を、詳しく学びたいと望みました。そこで、わたしは聖書そのものから、聖なる泉から汲むように、惜しみなく汲み出すことにしました。そうして、尋ねられていることを、あなたの目の前に示すのがよいと考えたのです。あなたが、これを耳で聞いて心に納め、喜ぶだけで終わらないためです。力を尽くして事柄そのものを探り知り、すべてにおいて神をあがめることができるためです。1:2 これが、わたしからあなたへの、今の生のための危なげのない旅の糧となりますように。それは、多くの人には知りがたく、とらえがたいことを、あなたがすぐに使える言葉で語り出すためです。そして、それを肥えた清い地に蒔くように、あなたの心の広がりの中に蒔き込むためです。また、それによって、救いの言葉に逆らい、言い返す人々を恥じ入らせるためです。1:3 ただ、あなたがこれを、不信仰な者や冒瀆する者の舌にゆだねはしないかと、わたしは恐れています。その危険は、並たいていのものではないからです。これは、敬虔で忠実な人々に分けてください。『信心深く、正しく』（第一テサロニケ二・一〇）、恐れをもって生きようと願う人々です。1:4 幸いな使徒がテモテに書き送って勧めたのは、むだなことではありません。『テモテよ。あなたにゆだねられていることを守りなさい。そして、俗悪なむだ話と、偽りの知識による反対論とを避けなさい。ある人々はそれに熱中して、信仰からそれてしまったのである』（第一テモテ六・二〇〜二一）。また、こうも書いています。『そこで、わたしの子よ。あなたはキリスト・イエスにある恵みによって、強くなりなさい。そして、あなたが多くの証人の前でわたしから聞いたことを、さらにほかの者たちにも教えることのできるような忠実な人々に、ゆだねなさい』（第二テモテ二・一〜二）。1:5 幸いな使徒でさえ、すべての人に分かりやすいわけではないこれらのことを、慎み深く伝えていました。『すべての人が信仰を持っているわけではない』と、霊によって見通していたからです（第二テサロニケ三・二）。それなら、わたしたちが神の言葉を、俗悪でふさわしくない人々に、軽々しく手当たりしだいに分け与えたらどうでしょうか。どれほど大きな危険を冒すことになるでしょうか。

2:1 というのも、幸いな預言者たちは、わたしたちの目となったからです。彼らは、信仰によって、言の奥義を前もって見ていました。そして、その奥義を伝えて、後の世代にも仕えました。過ぎ去ったことを語っただけではなく、今のことも、これから起こることも告げ知らせたのです。それは、預言者が預言者であることが、ひとときのあいだだけ示されるのではないためです。すべての世代に、これから起こることを前もって語り、預言者であることが知らされるためです。2:2 預言者たちはみな、預言の霊によって整えられていました。また、言ご自身が、彼らをふさわしく重んじてくださいました。彼らは楽器のように互いに一つに結ばれ、楽器を弾く撥のような言を、いつも自分のうちに持っていました。その言に動かされて、神がお望みになったことを告げ知らせたのです。2:3 預言者たちは、自分の力で語ったのではありません。思い違いをしてはなりません。自分が望んだことを宣べ伝えたのでもありません。まず、言によって正しく知恵を授けられ、次に、幻によって、これから起こることを前もってよく教えられました。そうして遣わされて、神が自分たちだけに啓示なさったことを語ったのです。2:4 そうでなければ、預言者は何によって預言者と呼ばれるのでしょうか。霊によって、これから起こることを前もって見ていたからではありませんか。もし預言者が、すでに起こった何かの事柄について語ったのなら、預言者ではなかったでしょう。すべての人が目の前で見ていたことを語ったにすぎないからです。むしろ、これから起こることを詳しく語ったからこそ、正しく預言者と判断されたのです。2:5 ですから、預言者たちが昔から『先見者』と呼ばれていたのも、もっともなことです（第一サムエル九・九）。そこで、わたしも、彼らが前もって語ったことを[1]よく学んだうえで語ります。自分の思いつきから語るのではありません。2:6 わたしは、何か新しいことを持ち込もうとしているのではあ

りません。昔から前もって語られてきた言葉を、書かれたままに示し、明るみに出すだけです。正しく信じることのできる人々のためです。それは、双方に共通の益があるためです。語る者は、記憶にとどめたことによって、取り上げる事柄を正しく説き明かすことができます。聞く者は、語られることに心を向けることができます。2:7語る者にも聞く者にも、共通の労苦が課せられています。語る者には、危なげなく語り出すという労苦があり、聞く者には、忠実に聞いて、語られることを受け入れるという労苦があります。ですから、テオフィロスよ、あなたにもお願いします。神に祈るとき、わたしと共に闘ってください、

3:1昔、神の言が幸いな預言者たちに啓示なさったことを、今また神の子ご自身が、わたしを通してあなたに明かしてくださるようにと。それは、あなたが祈りによってこの方から得ようと求めていることです。この方は、昔は言であられ、今はわたしたちのために、人としても世に現れてくださいました。3:2言は、すべての聖徒を通して、ご自分のあわれみ深さと、人を分け隔てなさらないことを示しておられます。熟練した医者のように、ご自身を薬草として[2]、わたしたちの益に合うように調えてくださいます。人の弱さを知っておられるからです。そして、知らない人々には教えようとし、迷っている人々は、ご自分のまことの道に立ち帰らせようとなさいます。信仰をもって求める人々には、たやすく見いだされます。清い体と清らかな心で戸をたたこうと望む人々には、すぐに戸を開いてくださいます。3:3この方は、ご自分の僕のだれひとり、捨てることはなさいません。だれをも、ご自分の神聖な奥義にふさわしくない者として忌み嫌うことはなさいません。金持ちを貧しい者より重んじることも、貧しい者をその暮らしの乏しさのゆえにさげすむこともなさいません。未開の人を知恵のない者としてそしることも、宦官を人でない者として除け者にすることもなさいません。女を、初めに起こった不従順のゆえに憎むことも、男を、その違反のゆえに辱めることもなさいません。かえって、すべての人をあわれみ、すべての人を救おうと望んでおられます。すべての人を神の子らに整えようとし、聖徒たちをみな、ひとりの全き人へと招いておられます。3:4神の子は、ただひとりだからです。わたしたちもこの方によって、聖霊による新生を受けました。そして、みな、そのひとりの全き、天に属する人に到達したいと願っています。

4:1というのは、神の言は、肉を持たない方であったのに、聖なる肉をお着けになったからです。聖なるおとめから、花婿が衣をまとうようにお着けになったのです。十字架の受難のうちに、それをご自分のために織り上げなさったのです。それは、わたしたちの死ぬべき体を、ご自分の力と混ぜ合わせるためでした。朽ちるものを朽ちないものと、弱いものを強いものと混ぜて、滅びかけている人間をお救いになるためでした。4:2主の機は、十字架の上で起こった受難のようなものです。その縦糸は聖霊の力、横糸は霊のうちに織り込まれる聖なる肉のようなものです。綜絖の糸は、キリストの愛による恵みで、両方を締めつけ、一つに結び合わせます。杼は言です。働く者たちは族長たちと預言者たちで、キリストの、足まで垂れる美しい全き衣を織っています。言は、彼らを通して杼のように行き来し、彼らを通して、父がお望みになることを織り上げなさいます。

5:1しかし、時はもう、本題に入るよう求めています。神の栄光のために序で語ったことで、十分でしょう。ですから、わたしは聖書そのものに取りかかり、それによって示さなければなりません。反キリストの到来とは何か、どのようなものか。不法の者は、どのような時期、どのような時に現れるのか。どこから、どの部族から出るのか。聖書が数によって示している彼の名は何か。彼はどのように民に迷いを生み、地の果てから彼らを呼び集めるのか。どのように聖徒たちに患難と迫害を起こすのか。どのように自分を神としてあがめるのか。彼の終わりはどうなるのか。主の現れは、どのように天から明らかにされるのか。全世界が火で焼き尽くされることとは、どのようなことか。キリストと共に治める聖徒たちの、栄光ある天の御国とは、どのようなものか。不法の者たちが火によって受ける永遠の刑罰とは、どのようなものか。

訳注

1 ここで本文の一部が欠けている。

2 写本と古い訳はみな、ここを『行き巡って』か『照らして』と読む。

6〜14章　ヤコブの祝福

6:1 聖書は、わたしたちの主であり救い主である、神の子キリスト・イエスを、獅子として前もって告げ知らせました。この方が王であり、栄光ある方だからです。それと同じように、聖書は反キリストをも、獅子として前もって告げています。彼が暴君であり、荒々しいからです。6:2 惑わす者は、すべてにおいて神の子に自分を似せようとするのです。キリストは獅子であり、反キリストも獅子です。キリストは王であり、反キリストも地上の王です。6:3 救い主は小羊としてお現れになりました。彼も同じように小羊の姿で現れますが、内側は狼です。救い主は割礼を受けた者として世においでになりました。彼も同じように、割礼を受けた者として来ます。6:4 主は使徒たちをすべての国民にお遣わしになりました。彼も同じように、偽使徒たちを送ります。救い主は散らされた羊をお集めになりました。彼も同じように、散らされたユダヤ人の民を呼び集めます。6:5 主はご自分を信じる人々に印をお与えになりました。彼も同じように印を与えます。主は人の姿でお現れになりました。彼も人の姿で来ます。救い主は、ご自分の聖なる肉を神殿として起こし、それをお示しになりました。彼も、エルサレムの石の神殿を起こします。6:6 彼のこうした惑わしの企みについては、わたしは後で明らかにします。今は本題に移りましょう。

7:1 幸いなヤコブは、祝福の言葉の中で、わたしたちの主であり救い主である方のことを前もって告げ、こう言っています。『ユダよ、兄弟たちがあなたをほめたたえるように。あなたの手は敵の背の上にある。父の子らはあなたを伏し拝むであろう。7:2 ユダは獅子の子。わが子よ、あなたは若枝から上って来た。あなたは身を伏せて、獅子のように、獅子の子のように眠った。だれが彼を起こすのか。ユダから治める者は絶えず、その腿から君も絶えない。それが備えられているかたが来るまで。彼はもろもろの民の待ち望む者となる。7:3 彼はその雌ろばをぶどうの木につなぎ、その雌ろばの子をぶどうのつるにつなぐ。彼はその衣をぶどう酒で洗い、その着物をぶどうの血で洗う。7:4 その目はぶどう酒によって喜びに輝き、その歯は乳よりも白い』（創世記四九・八〜一二）。

8:1 あなたは、これを自分で言い換えて説き明かすことができます。ですから、今はわたしが控えてもよいと思えます。しかし、この言葉そのものが、語るようにと促します。ですから、わたしはこれも省きません。この言葉は、まことに神聖で栄光あるもので、魂を益することができるからです。8:2 預言者は『獅子の子』と言って（創世記四九・九）、ユダとダビデから出た方、肉においてお生まれになった神の子を示しました。また、『わが子よ、あなたは若枝から上って来た』と言って、聖なるおとめから芽生えた実を示しました。その実は種によって生まれたのではなく、聖霊によって宿されたものです。そして、聖なる若枝から出るように、地から出てきたのです。8:3 イザヤはこう言っています。『エッサイの根から一本の枝が出て、その根から花が咲き出る』（イザヤ一一・一）。イザヤが『花』と言ったものを、ヤコブは『若枝』と言ったのです。言は、まず胎の中で芽生え、それから世で花をお開きになったからです。8:4 また、『あなたは身を伏せて、獅子のように、獅子の子のように眠った』と言って、キリストの三日間の眠りを明らかにしました。イザヤもこう言っています。『忠実な町が、どうして淫婦となったのか。公平に満ちたシオンが。正義はその中で眠った。しかし今は人殺しどもがいる』（イザヤ一・二一）。8:5 ダビデも同じように言っています。『わたしは眠り、寝入った。わたしは目を覚ました。主がわたしをささえられるからだ』（詩篇三・五）。それは、この言葉によって、この方の眠りと復活がかつて起こったことを示すためです。8:6 ヤコブは『だれが彼を起こすのか』と言います。それは父です。パウロも『彼を死人の中からよみがえらせた父なる神』と言っているとおりです（ガラテヤ一・一）。

9:1 また、ヤコブはこう言いました。『ユダから治める者は絶えず、その腿から君も絶えない。それが備えられているかたが来るまで。彼はもろもろの民の待ち

望む者』（創世記四九・一〇）。それによって、ユダから続く王の家系の連なりが、キリストに至って満たされることを明らかにしたのです。9:2 わたしたち異邦人にとって、この方こそ『もろもろの民の待ち望む者』だからです。わたしたちは、この方が天から力をもっておいでになるのを待ち望んでいます。信仰によって、すでにこの方を見ているのです。

10:1 『彼はその雌ろばをぶどうの木につなぎ』（創世記四九・一一）とは、割礼の民を、ご自分の召しへとつないでくださることです。この方ご自身が、ぶどうの木であられたからです。『その雌ろばの子をぶどうのつるに』とは、異邦人から出た民を、若い子ろばのように、ご自分に結び合わせてくださることです。割礼の者も無割礼の者も、一つの信仰へと招いておられるのです。

11:1 『彼はその衣をぶどう酒で洗い』（創世記四九・一一）。この衣とは、聖霊の、父からの恵みです。それは、ヨルダン川で、この方の上に下ったものです。『その着物をぶどうの血で洗う』。それでは、何のぶどうの血でしょうか。木の上で、ぶどうの房のように搾られた、この方の聖なる肉の血ではありませんか。その脇腹から、血と水という二つの泉がほとばしり出ました。異邦の民は、それによって洗われ、清められます。その民が、キリストの着物と見なされているのです。

12:1 『その目はぶどう酒によって喜びに輝き』（創世記四九・一二）。キリストの目とは、幸いな預言者たちでなくて、だれでしょうか。彼らは霊によって前もって見て、この方に起こる苦難を前もって宣べ伝えました。彼らは霊の目で、力のうちにこの方を見て、喜んでいました。言ご自身とその恵みが、いつも彼らを整えてくださっていたのです。

13:1 また、『その歯は乳よりも白い』と言って（創世記四九・一二）、キリストの聖なる口から出る戒めを示しました。その戒めは、乳のように清いのです。

14:1 聖書は、キリストを獅子とも獅子の子とも前もって告げたので、それと同じことが、反キリストについても言われています。モーセはこう言っています。『ダンは獅子の子であって、バシャンからおどり出る』（申命記三三・二二）。14:2 しかし、この言葉はキリストについて言われたのだと思って誤ることのないように、だれもがよく心を留めるべきです。モーセは『ダンは獅子の子』と言います。部族の名、すなわちダンの名を挙げて、取り上げている事柄をはっきりさせたのです。反キリストは、この部族から生まれることになっています。14:3 キリストがユダの部族からお生まれになったように、反キリストもダンの部族から生まれるのです。そのとおりであることについて、ヤコブは何と言っているでしょうか。『ダンは、道に座って馬のかかとをかむ蛇となれ』（創世記四九・一七）。14:4 それでは、その蛇とは、初めからの惑わす者でなくて、だれでしょうか。創世記で語られている者、エバを惑わし、アダムのかかとをすくった者です。しかし、取り上げている事柄は、さらに多くの証言によって示さなければなりません。ですから、ひるまずに進みましょう。

15〜18章　ダンの部族と預言者たちの言葉

15:1 まことに、ダンの部族から暴君が生まれ、立ち上がることになっています。彼は王であり、恐ろしいさばき手であり、悪魔の子です。そのことを、預言者はこう言っています。『ダンは、イスラエルの一つの部族のように、自分の民をさばく』（創世記四九・一六）。15:2 しかし、だれかが「これはサムソンのことを言っているのだ」と言うでしょう。サムソンはダンの部族から生まれ、民を二十年さばいた人です。たしかに、サムソンにおいて、これは部分的に起こりました。しかし、反キリストにおいて、完全に成就するのです。15:3 エレミヤもこう言っているからです。『わたしたちは、ダンから、彼の馬の速く慌ただしい響きを聞く。彼の馬が駆け、いななく声に、全地は震えた』（エレミヤ八・一六）。また、ほかの預言者もこう言っています。『彼は、日の出るところから日の沈むところまで、自分の全軍勢を集める。彼が呼んだ者も、呼ばなかった者も、彼とともに行く。彼は自分の船の帆で海を白くし、盾と武器で野を黒くする。戦いで彼に立ち向かう者は、みな剣に倒れる』[1]。15:4 これらのことは、ほかのだれでもなく、あの暴君、恥知らずで神に逆らう者について言われています。そのことを、わたしは続く箇所で示します。

16:1 イザヤはこう言っています。『主がシオンの山とエルサレムとで、すべてのことをなし遂げられるときが来る。そのとき主は、大いなる心、すなわちアッスリヤ人の君と、その目の誇る高ぶりとを罰せられる。16:2 彼はこう言ったからである。わたしは自分の力で行い、悟りの知恵によって諸国民の境を取り除き、彼らの力を奪い取る。人の住む町々を揺り動かし、全世界を巣のように手でつかみ、捨てられた卵のように取り上げる。わたしから逃れる者も、わたしに言い逆らう者もいない。16:3 そうではないか。しかし、アドナイなる主は、あなたの誉れに辱めを送り、あなたの栄光には燃える火が燃える。イスラエルの光は火となり、炎で彼を聖別し、草のように森を食い尽くす』（イザヤ一〇・一二〜一七）。

17:1 また、ほかの箇所でこう言っています。『取り立てる者は、どうして休んだのか。せき立てる者は、どうして休んだのか。神は支配者たちのくびきを砕かれた。怒って国民を打ち、治らない打撃を加え、容赦のない憤りの打撃で国民を打った。安心して休んだ。全地は喜んで叫ぶ。レバノンの木々も、レバノンの香柏も、あなたのことを喜んだ。あなたが眠ってから、わたしたちを切る者は上って来ない。17:2 下の陰府は、あなたを迎えて苦い思いをした。地を治めた巨人たちはみな、あなたのために起き上がった。その王座から、国々のすべての王を立たせる者たちである。彼らはみな答えて、あなたに言う。あなたも、わたしたちのように捕らえられた。あなたも、わたしたちの中に数えられた。17:3 あなたの栄光、あなたの大いなる喜びは、陰府に下った。あなたの下には腐れが敷かれ、うじがあなたのおおいとなる。朝早く昇る明けの明星は、どうして天から落ちたのか。すべての国民に使者を送った者は、地に打ち砕かれた。17:4 あなたは心のうちに言った。わたしは天にのぼり、天の星の上にわたしの王座を置く。北にある高い山々の上の、高い山に座し、雲の上にのぼり、いと高き者のようになろう、と。17:5 しかし今、あなたは陰府に下り、地の基に下る。あなたを見る者は、あなたに驚いて言う。この人は、地を怒らせ、王たちを揺り動かし、全世界を荒野にした者だ。彼は町々を打ちこわし、捕らわれた者たちを解き放たなかった。17:6 国々の王たちはみな、それぞれ自分の家で、誉れのうちに眠った。しかし、あなたは忌まわしい死体のように、山々に投げ捨てられる。剣で刺し貫かれて倒れ、陰府に下る多くの者たちと一緒にである。17:7 血にまみれた着物が清くならないように、あなたも清くはならない。あなたはわたしの地を滅ぼし、わたしの民を殺したからである。悪い子孫よ、あなたはとこしえに長らえることはない。17:8 あなたの父の罪のゆえに、あなたの子らがほふられるよう備えよ。彼らが起き上がって、地を受け継ぐことのないためである』（イザヤ一四・四〜二一）。

18:1 エゼキエルも同じように、彼についてこう言っています。『主なる神はこう言われる。あなたは心が高ぶって、言った。わたしは神である。わたしは海の真ん中で、神の住まいに住んでいる、と。しかし、あなたは人であって、神ではない。あなたは自分の心を、神の心のようにした。あなたはダニエルよりも賢いというのか。賢い者たちは、その知識であなたを教えなかった。あなたは、自分の知恵や悟りで、力を得、金や銀を倉に蓄えたというのか。あるいは、大いなる知識と商いで、力を増し加えたというのか。あなたの心は、自分の力によって高ぶった。18:2 それゆえ、主なる神はこう言われる。あなたは自分の心を、神の心のようにした。そのため、見よ、わたしは諸国民の中から、疫病のような異国の者たちを、あなたに攻めこさせる。彼らはあなたと、あなたの知識の美しさとに向かって、剣を抜く。あなたの美しさを打ち倒して滅ぼし、あなたを引きずり下ろす。あなたは海の真ん中で、刺し殺された者の死を遂げる。18:3 それでもなおあなたは、あなたを殺す人々の前で、わたしは神である、と言うのか。あなたは人であって、神ではない。あなたは多くの割礼のない者たちの中で、異国の者たちの手にかかって滅びる。わたしが語ったのだ、と主は言われる』（エゼキエル二八・二〜一〇）。

訳注

1 この引用の出どころは分かっていない。

19〜25章　ネブカデネザルの見た像と、ダニエルの見た四つの獣

19:1 そこで、これらの言葉が示されたので、ダニエルがその幻の中で何を語っているかを、詳しく見ましょう。ダニエルは、この後に起こる王国を一つ一つ分けて語り、終わりの時の反キリストの到来と、全世界の終わりとを示したからです。19:2 ダニエルは、ネブカデネザルの幻を解き明かして、こう言っています。『王よ、あなたは見ておられた。見よ、大きな像が、あなたの前に立っていた。その像の頭は純金、腕と肩と胸とは銀、腹と、ももとは青銅、すねは鉄、足の一部は鉄、一部は粘土であった。19:3 あなたが見ておられると、一つの石が人手によらずに切り出されて、その像の鉄と粘土との足を撃ち、これを砕き尽くした。そのとき、粘土と、鉄と、青銅と、銀と、金とは、一度に砕けて、夏の打ち場のちりのようになった。風の勢いがそれを吹き払い、あとかたもなくなった。ところが、その像を撃った石は大きな山となって、全地に満ちた』（ダニエル二・三一〜三五）。

20:1 そこで、これにダニエル自身の幻も合わせて、わたしは両方を一つにして解き明かします。そうして、両者が一致していて、真実であることを示します。ダニエルはこう言っています。『わたしダニエルが見ていると、見よ、天の四方の風が大海に吹きつけた。そして、四つの大きな獣が海から上ってきた。それらは互いに異なっていた。20:2 第一のものは雌獅子のようで、その翼はわしの翼のようであった。わたしが見ていると、その翼は抜き取られた。そして地から起こされ、人の足で立たせられ、人の心が与えられた。20:3 また見よ、第二の獣は熊のようであった。それは一方の側に立ち、その口には三本の肋骨があった。わたしが見ていると、見よ、豹のような、ほかの獣がいた。その上には鳥の翼が四つあり、この獣には四つの頭があった。20:4 その後、わたしが見ていると、見よ、第四の獣は恐ろしい、ものすごい、非常に強いものであった。その歯は鉄、そのつめは青銅であって、食らい、かつ、かみ砕いて、その残りを足で踏みつけた。20:5 これは、その前のすべての獣と、はなはだ異なっていた。また、それには十の角が与えられていた。わたしが、その角を注意して見ていると、見よ、その間から、ほかの小さい角が出てきた。この角の前で、さきの角のうち三つが根から抜け落ちた。見よ、この角には人の目のような目があり、また大きな事を語る口があった。

21:1 わたしが見ていると、もろもろのみ座が設けられて、日の老いたる者が座しておられた。その衣は雪のように白く、頭の毛は混じりもののない羊の毛のようであった。そのみ座は火の炎であり、その車輪は燃える火であった。21:2 火の川が、彼の前を流れていた。彼に仕える者は千々、彼のまわりに立つ者は万々であった。審判を行う者がその席に着き、かずかずの書き物が開かれた。そのとき、わたしは、その角の語る大いなる言葉の声のゆえに見ていた。すると、ついに獣は殺されて滅び、そのからだは焼かれるために火に渡された。また、その他の獣は主権を奪われた。

22:1 わたしはまた夜の幻のうちに見ていると、見よ、人の子のような者が、天の雲とともに来て、日の老いたる者のところまで来た。そして、その前に導かれた。22:2 彼に主権と誉れと国とが与えられ、すべての民、部族、国語の者が彼に仕える。その権威は永遠の権威であって、なくなることがなく、その国は滅びることがない』（ダニエル七・二〜一四）。

23:1 これらのことは奥義として語られているので、ある人々には分かりにくいと思われます。ですから、健全な心を持つ人々が知ることができるように、わたしはこのうちの何一つ隠しません。ダニエルは『雌獅子』が『海から上ってきた』と言って、この世に起こったバビロン人の王国を示しました（ダニエル七・三〜四）。この王国が、像の金の頭です。また、『その翼はわしの翼のよう』と言うのは、ネブカデネザル王が高ぶり、神に逆らって思い上がったということです。23:2 次に、ダニエルは『その翼は抜き取られた』と言います。それは、王の栄光が引き下ろされたということです。王は、その王国から追い出されたからで

す。また、『人の心が与えられ、人の足で立たせられた』と言うのは、王が悔い改めたということです。王は自分が人であることを悟り、神に栄光を帰しました。

24:1 さて、雌獅子の後に、ダニエルは『第二の獣』を見ます。『熊のような』獣です（ダニエル七・五）。これはペルシャ人でした。バビロン人の後に、ペルシャ人が支配したからです。また、『その口には三本の肋骨』と言うことで、三つの国民を示しました。ペルシャ人、メデア人、バビロン人です。これは、像では金の後の銀として示されています。24:2 次に、第三の獣は豹で、これはギリシヤ人でした。ペルシャ人の後に、マケドニヤ人アレクサンドロスがダリヨスを倒して、支配したからです。このアレクサンドロスが、像では青銅として示されています。24:3 また、ダニエルは『鳥の翼が四つ、また、この獣には四つの頭』と言いました。それによって、アレクサンドロスの王国がどのように四つの部分に分けられたかを、きわめてはっきりと教えたのです。四つの頭と言って、その王国から起こった四人の王を知らせたのです。アレクサンドロスは死ぬときに、自分の王国を四つの部分に分けたからです。

25:1 次に、ダニエルは言います。『第四の獣は恐ろしい、ものすごいもので、その歯は鉄、そのつめは青銅であった』（ダニエル七・七）。これは、ローマ人のほかに、だれでしょうか。これが鉄であり、今ある王国です。25:2 ダニエルは、『そのすねは鉄』と言っているからです（ダニエル二・三三）。愛する者よ、その後に、像の足の裏のほかに、何が残っているでしょうか。その足の裏は『一部は鉄、一部は粘土で、互いに混じり合っている』のです（ダニエル二・三三、四一）。25:3 ダニエルは足の指によって、その王国から起こる十人の王を、奥義として明らかにしました。それは、ダニエルが次のように言っていることです。『わたしがその獣を注意して見ていると、見よ、その後ろに十の角があった。その中に、ほかの小さい角が、ひこばえのように上ってくる。そして、それより前の角のうち三つを、根から抜く』（ダニエル七・七〜八）。これは、ほかのだれでもなく、起こってくる反キリストのことを示しています。彼自身も、ユダヤ人の王国を興します。25:4 また、三つの角が彼によって根から抜かれると言うことで、エジプト、リビヤ人、エチオピヤ人の三人の王を示しています。彼は戦いの陣を敷いて、この王たちを殺します。彼はすべてを支配し、恐ろしい、残忍な暴君であって、聖徒たちに患難と迫害を加え、彼らに向かって思い上がる者です。25:5 ダニエルはこう言っているからです。『わたしがその角を見つめていると、見よ、その角は聖徒たちと戦って、彼らに勝った』（ダニエル七・二一）。そして、『ついに獣は殺されて滅び、そのからだは焼かれるために火に渡された』のです（ダニエル七・一一）。

26〜33章　像と獣の解き明かしの締めくくりと、預言者たちへの呼びかけ

26:1 その者の後に、ついに天から『その像を撃った石』が来ます（ダニエル二・三四〜三五）。この石は像を砕き、すべての王国を廃して、いと高き者の聖徒たちに国を与えます。26:2 この方こそ、『大きな山となって、全地に満ちた』方です。この方について、ダニエルはこう言っています。『わたしはまた夜の幻のうちに見ていると、見よ、人の子のような者が、天の雲とともに来て、日の老いたる者のところまで来た。26:3 彼に主権と誉れと国とが与えられ、すべての民、部族、国語の者が彼に仕える。その権威は永遠の権威であって、なくなることがなく、その国は滅びることがない』（ダニエル七・一三〜一四）。26:4 こうしてダニエルは、日の老いたる者が子にお与えになった、いっさいの権威を示しました。子は、『天上のもの、地上のもの、地下のもの』、すなわち、すべてのものの王、またさばき手として示されたのです（ピリピ二・一〇）。天上のものに対してそうであるのは、言として、すべてのものに先立って、父の心から生まれておられたからです。地上のものに対してそうであるのは、人々の中に人としてもお生まれになったからです。こうして、ご自分によってアダムを造り直してくださいました。地下のものに対してそうであるのは、死者のうちにも数えられたからです。そして、聖徒たちの魂に福音をお告げになり、死によって死にお勝ちになりました。

27:1 では、これらのことが起こるのです。像の十本の足の指は民衆の支配に移り、獣の十の角は十人の王に分けられます。そこで、取り上げる事柄を、もっとはっきり見ましょう。目で見るように、よく考えてみましょう。

28:1 像の金の頭は、雌獅子で、バビロン人でした。銀の肩と腕は、熊で、ペルシャ人とメデア人でした。青銅の腹と、ももは、豹で、アレクサンドロスから後に支配したギリシヤ人でした。鉄のすねは、ものすごい、恐ろしい獣で、今支配しているローマ人です。粘土と鉄の足の裏は、十の角で、これから現れるものです。その中に生え出る、ほかの小さい角は、反キリストです。像を撃って砕き、地に満ちた石は、天からおいでになって、世にさばきをお下しになるキリストです。

29:1 愛する者よ、わたしはこれらのことを、恐れをもって、惜しみなくあなたに分かち伝えます。『はるかにまさるキリストの愛』のゆえです（エペソ三・一九）。というのも、わたしたちより前にいた幸いな預言者たちは、これを知っていながら、大胆に宣べ伝えようとはしませんでした。人々の魂に騒ぎを起こさないためです。かえって、たとえと謎によって、奥義として語りました。『ここに、知恵のある心が必要である』と言ったのです（黙示録一七・九）。それなら、彼らが隠して語ったことを、あえて明るみに出すわたしは、どれほど大きな危険を冒すことになるでしょうか。それでは、この汚れた淫婦に、終わりの時に何が起こるかを見ましょう。さばきに先立って、神の怒りによって、どのような部分的な責め苦が彼女に臨むかを見ましょう。

30:1 さあ、幸いなイザヤよ、起き上がってください。大いなる都バビロンについて何を預言したのかを、はっきり語ってください。あなたがエルサレムについて語ったことも、そのとおりに成し遂げられたからです。あなたは大胆に、こう語りました。『あなたがたの地は荒れすたれ、あなたがたの町々は火で焼かれるがよい。あなたがたの田畑は、あなたがたの前で外国人に食い尽くされ、多くの外国人に覆されて荒れすたれた。30:2 シオンの娘は、ぶどう畑の仮小屋のように、きゅうり畑の番小屋のように、包囲された町のように、取り残される』（イザヤ一・七〜八）。では、どうでしょうか。これらのことは、もう起こったではありませんか。あなたが語ったことは、成就したではありませんか。彼らのユダヤの地は荒れすたれたではありませんか。聖所は焼かれたではありませんか。城壁は覆されたではありませんか。町々は打ち壊されたではありませんか。外国人が田畑を食い尽くしているではありませんか。ローマ人が彼らの地を支配しているではありませんか。しかし、不法の者たちはあなたを憎んで、のこぎりで引き

ました。彼らはキリストをも十字架につけたのです。あなたは世にあっては死にましたが、それでも、キリストのうちに生きています。

31:1 では、あなたがたのうちのだれを、あなたよりも愛したらよいでしょうか。しかし、エレミヤも石で打たれました。では、エレミヤをもっと愛すべきでしょうか。しかし、ダニエルも証しをしています。ダニエルよ、すべての人にまさって、あなたをほめたたえましょうか。しかし、ヨハネも偽りを言いません。31:2 どれほど多くの口と舌で、あなたがたをたたえたらよいでしょうか。いや、むしろ、あなたがたのうちでお語りになった言を、たたえましょう。あなたがたはキリストと共に死にましたが、神のうちに生きるのです。聞いて、喜んでください。見よ、あなたがたが語ったことは、それぞれの時に成就しました。31:3 あなたがたは、まずそれを見て、それから神の言葉をすべての世代に宣べ伝えました。すべての世代に仕えたのです。あなたがたは預言者として宣べ伝えられました。すべての人を救うことができるためです。預言者が本当に預言者となるのは、これから起こることを前もって宣べ伝え、後に、それが起こったことを示すときだからです。31:4 あなたがたはみな、良い師の弟子となりました。わたしは、生きている人々に語るように、ふさわしく、これをあなたがたに語りかけます。あなたがたのために天にたくわえられている、いのちと不朽の冠を、すでに持っているからです。

32:1 幸いなダニエルよ、わたしに語ってください。お願いですから、わたしに確信を与えてください。あなたは、バビロンで雌獅子について預言しています。そこで捕囚となっていたからです。熊について、これから起こることも語っています。まだこの世にいて、それが成し遂げられたのを見たからです。32:2 次に、あなたはわたしに豹のことを語ります。どうして、あなたはそれを知ることができたのでしょうか。あなたは、もう眠りについていたのですから。母の胎内であなたを形づくってくださった神の言のほかに、だれが、あなたにこれを前もって教えたでしょうか。あなたは語り、偽りを言いませんでした。32:3 豹が起こり、雄やぎが来て、雄羊を撃ち、その角を砕き、足でこれを踏みつけました。そして、支配し、高ぶりました。雄やぎが倒れたとき、その下から四つの角が起こりました。喜んでください、幸いなダニエルよ。あなたは誤っていませんでした。これらのことは、みな起こったのです。

33:1 その後、もう一度わたしに語ってください。『第四の獣は恐ろしい、ものすごいものであった。その歯は鉄、そのつめは青銅であって、食らい、かつ、かみ砕いて、その残りを足で踏みつけた』（ダニエル七・七）。33:2 見よ、今『鉄』が支配しています。見よ、それは『すべての物をこわし砕く』のです（ダニエル二・三三、四〇）。見よ、それは、従おうとしない者をみな従わせています。見よ、わたしたちは、それを目の当たりにしています。見よ、わたしたちはあなたに教えられて、神をあがめています。

34〜40章　淫婦バビロンについてのイザヤとヨハネの預言

34:1 しかし、淫婦について語ることが、わたしの本題でした。ですから、幸いなイザヤよ、進み出てください。バビロンについて、あなたが何と言っているかを見ましょう。『下って、地にすわれ、処女なるバビロンの娘よ。すわれ、カルデヤびとの娘よ。あなたはもはや、やさしく、たおやかな女ととなえられることはない。34:2 石うすをとって粉をひけ。顔おおいを取り去り、白髪をあらわにし、すねをあらわして川を渡れ。あなたの恥はあらわになり、あなたへのそしりが現れる。34:3 わたしはあなたから正しい報いを取る。もはやあなたを人々に渡すことはない。あなたを救い出す方は万軍の主、その名はイスラエルの聖者である。カルデヤびとの娘よ、うちひしがれてすわれ、暗い所にはいれ。あなたはもはや、王国の力ととなえられることはない。

35:1 わたしはわが民を憤った。あなたはわが嗣業を汚した。わたしは彼らをあなたの手に渡したが、あなたは彼らにあわれみを施さず、年老いた者のくびきを、はなはだ重くした。そして、あなたは言った。わたしはとこしえに女王となる。35:2 あなたはこれらの事を心にとめず、また終りの事を思わなかった。今この事を聞け、楽しみにふける者よ。安心してすわり、心のうちにこう言う者よ。ただわたしだけで、わたしのほかにだれもなく、わたしは寡婦としてすわることはない、また子を失うことを知らない。35:3 今、これらの二つの事が、一日のうちにあなたに臨む。寡婦となる事と子を失う事とが、にわかにあなたに臨む。たといあなたが魔術を行い、魔法の大いなる力を用い、悪に望みをかけていても、そうなる。35:4 あなたは、ただわたしだけで、わたしのほかにだれもない、と言ったのだ。それで、あなたの姦淫は、あなたの恥となる。あなたが心のうちに、ただわたしだけである、と言ったからである。滅びがあなたに臨むが、あなたはそれを知らない。穴があり、あなたはそこに落ちる。なやみがあなたに臨むが、あなたは清くなることができない。それはにわかにあなたに臨むが、あなたはそれを知らない。35:5 さあ、あなたが生まれた時から学んできた魔法と多くの魔術とをもって、立ちむかってみよ。助けを得られるかどうか。あなたは自分の計りごとに疲れ果てた。天の占星術師たちを立ちあがらせて、あなたを救わせよ。星を見る者たちに、あなたに何が臨もうとしているかを告げさせよ。35:6 見よ、彼らはみな、わらのように火の上で焼かれ、自分の身を炎から救い出すことができない。あなたは火の炭を持っているのだから、その上にすわれ。そうすれば、それがあなたの助けになる。あなたは若い時から商いに疲れた。人はみな、思い思いにさまよった。あなたには救いがない』（イザヤ四七・一〜一五）。35:7 イザヤは、このように預言しています。では、ヨハネも、これと同じことを語ったかどうかを見ましょう。

36:1 というのも、ヨハネはパトモスという島にいたとき、恐るべき奥義の黙示を見ました。そして、それを惜しみなく語り伝えて、ほかの人々をも教えています。幸いなヨハネよ、主の使徒、また弟子よ、バビロンについて、あなたが何を見、何を聞いたのかを、わたしに語ってください。36:2 目を覚まして、語ってください。バビロンこそ、あなたを島に流したのですから。『それから、七つの鉢を持つ七人の御使のひとりがきて、わたしに語って言った。さあ、きなさい。多くの水の上にすわっている大淫婦に対するさばきを、見せよう。地の王たちはこの女と姦淫を行い、地に住む人々はこの女の姦淫のぶどう酒に酔いしれている。36:3 御使は、わたしを御霊に感じたまま、荒野へ連れて行った。わたしは、そこでひとりの女が赤い獣に乗っているのを見た。その獣はかずかずの名でおおわれ、また、それに七つの頭と十の角とがあった。この女は紫と赤の衣をまとい、金と宝石と真珠とで身を飾り、憎むべきものと地の姦淫の汚れとで満ちている金の杯を手に持ち、その額には、一つの名がしるされていた。それは奥義であって、大いなるバビロン、淫婦どもと地の憎むべきものらとの母、というのであった。

37:1 わたしは、この女が聖徒の血とイエスの証人の血に酔いしれているのを見た。わたしはこの女を見て、非常に驚いた。すると、御使はわたしに言った。なぜそんなに驚くのか。この女の奥義と、女を乗せている、七つの頭と十の角のある獣の奥義とを、話してあげよう。37:2 あなたの見た獣は、昔はいたが、今はおらず、そして、やがて底知れぬ所から上ってきて、ついには滅びに至るものである。地に住む者のうち、世の初めからいのちの書に名をしるされていない者たちは、この獣が、昔はいたが今はおらず、やがて来るのを見て、驚きあやしむ。

38:1 ここに、知恵のある心が必要である。七つの頭は、この女のすわっている七つの山であり、また、七人の王のことである。そのうちの五人はすでに倒れ、ひとりは今おり、もうひとりは、まだきていない。それが来れば、しばらくの間だけおることになっている。38:2 昔はいたが今はいないという獣は、すなわち第八のものであるが、またそれは、かの七人の中のひとりであって、ついには滅びに至るものである。あなたの見た十の角は、十人の王のことである。彼らはまだ国を受けてはいないが、獣と共に、一時だけ王としての権威を受け、心をひとつにしている。そして、力と権威とを、獣そのものに与える。38:3 彼らは小羊に戦いをいどんでくるが、小羊は、主の主、王の王であるから、彼らにうち勝つ。また、小羊と共にいる召された、選ばれた、忠実な者たちも、勝利を得る。

39:1 御使はまた、わたしに言った。あなたの見た水、すなわち、淫婦のすわっている所は、あらゆる民族、群衆、国民、国語である。あなたの見た十の角と獣とは、この淫婦を憎み、みじめな者にし、裸にし、彼女の肉を食い、火で焼き尽すであろう。39:2 神は、御言が成就する時まで、彼らの心の中に、御旨を行い、思いをひとつにし、彼らの支配権を獣に与える思いを持つようにされたからである。39:3 あなたの見たかの女は、地の王たちを支配する大いなる都のことである。

40:1 この後、わたしは、もうひとりの御使が、大いなる権威を持って、天から降りて来るのを見た。地は彼の栄光によって明るくされた。彼は力強く、大きな声で叫んで言った。倒れた、大いなるバビロンは倒れた。そして、それは悪魔の住む所、あらゆる汚れた憎むべき霊の巣くつ、また、あらゆる汚れた憎むべき獣の巣くつとなった。すべての国民は、彼女の姦淫のぶどう酒の激しい怒りによって倒れ、地の王たちは彼女と姦淫を行い、地上の商人たちは、彼女の極度のぜいたくの力によって富を得たからである。40:2 わたしはまた、もうひとつの声が天から出るのを聞いた。わたしの民よ。彼女から離れ去って、その罪にあずからないようにし、その災害に巻き込まれないようにせよ。彼女の罪は積り積って天に達しており、神はその不義の行いを覚えておられる』（黙示録一七・一～一八・五）。

41〜46章　バビロンの滅びと、終わりの時の二人の預言者

41:1『彼女がしたとおりに彼女にし返し、そのしわざに応じて二倍に報復をし、彼女が混ぜて入れた杯の中に、その倍の量を、入れてやれ。彼女が自ら高ぶり、ぜいたくをほしいままにしたので、それに対して、同じほどの苦しみと悲しみとを味わわせてやれ。41:2彼女は心の中で、わたしは女王の位についている者であって、やもめではないのだから、悲しみを知らない、と言っている。それゆえ、さまざまの災害が、死と悲しみとききんとが、一日のうちに彼女を襲い、そして、彼女は火で焼かれてしまう。彼女をさばく主なる神は、力強いかたなのである。41:3彼女と姦淫を行い、ぜいたくをほしいままにしていた地の王たちは、彼女が焼かれる火の煙を見て、彼女のために胸を打って泣き悲しみ、彼女の苦しみに恐れをいだき、遠くに立って言うであろう。ああ、わざわいだ、大いなる都、不落の都、バビロンは、わざわいだ。おまえに対するさばきは、一瞬にしてきた。また、地の商人たちも彼女のために泣き悲しむ。もはや、彼らの商品を買う者が、ひとりもないからである。その商品は、金、銀、宝石、真珠、麻布、紫布、絹、緋布、各種の香木、各種の象牙細工、高価な木材、銅、鉄、大理石などの器、肉桂、香、におい油、乳香、ぶどう酒、オリブ油、麦粉、麦、牛、羊、馬、車、奴隷、そして人身などである。おまえの心の喜びであったくだものはなくなり、あらゆるはでな、はなやかな物はおまえから消え去った。それらのものはもはや見られない。41:4おまえの商人たち、すなわち彼女から富を得た者たちは、彼女の苦しみに恐れをいだいて遠くに立ち、泣き悲しんで言う。ああ、わざわいだ、麻布と紫布と緋布をまとい、金や宝石や真珠で身を飾っていた大いなる都は、わざわいだ。これほどの富が、一瞬にして無に帰してしまうとは。41:5また、すべての船長、航海者、水夫、すべて海で働いている人たちは、遠くに立ち、彼女が焼かれる火の煙を見て、叫んで言う。これほどの大いなる都は、どこにあろう。彼らは頭にちりをかぶり、泣き悲しんで叫ぶ。ああ、わざわいだ、この大いなる都は、わざわいだ。そのおごりによって、海に舟を持つすべての人が富を得ていたのに、この都も一瞬にして無に帰してしまった。

42:1天よ、聖徒たちよ、使徒たちよ、預言者たちよ。この都について大いに喜べ。神は、あなたがたのために、この都をさばかれたのである。すると、ひとりの力強い御使が、大きなひきうすのような石を持ちあげ、それを海に投げ込んで言った。大いなる都バビロンは、このように激しく打ち倒され、そして、全く姿を消してしまう。42:2また、おまえの中では、立琴をひく者、歌を歌う者、笛を吹く者、ラッパを吹き鳴らす者の楽の音は全く聞かれず、あらゆる仕事の職人たちも全く姿を消し、また、ひきうすの音も、全く聞かれない。また、おまえの中では、あかりもともされず、花婿、花嫁の声も聞かれない。というのは、おまえの商人たちは地上で勢力を張る者となり、すべての国民はおまえのまじないでだまされ、また、預言者や聖徒の血、さらに、地上で殺されたすべての者の血が、この都で流されたからである』（黙示録一八・六〜二四）。

43:1さて、淫婦が受ける責め苦については、これらの言葉にきわめて明らかに示されています。終わりの時に、そのとき現れる暴君たちによって彼女に臨む、部分的なさばきについても同じです。しかし、わたしは時をも詳しく調べて、述べなければなりません。これらのことがどの時に起こり、小さい角がその時のうちにどのように生え出るのかを、です。43:2というのも、今支配している鉄のすねは、像が明かし、恐ろしい獣が示したとおり、足の裏と足の指へと移るからです。このことは前に示しました。では、鉄と粘土が一つに混じり合うのは、どの時なのでしょうか。いま取り上げている事柄を、ダニエルがわたしたちに示してくれます。43:3ダニエルはこう言っています。『そして、一週は多くの者と契約を結ぶ。その週の半ばに、わたしの犠牲と供え物は取り除かれる』（ダニエル九・二七）。こうして一週と言うことで、ダニエルは最後の週を示しました。それは、全世界の終局に、終わりの時に来る週です。この週の半分を、二人の預言

者エノクとエリヤが受け持ちます。43:4というのも、彼らは『千二百六十日のあいだ、荒布を着て』宣べ伝え、民とすべての異邦人に悔い改めを告げ知らせるからです（黙示録一一・三）。

44:1というのも、わたしたちの主であり救い主である方の来臨は二つあると、聖書によって示されました。第一の来臨は肉においてのもので、卑しいものとなりました。人々が主を侮ったからです。イザヤが、あらかじめこう告げていたとおりです。『わたしたちは彼を見たが、彼には姿もなく、美しさもなかった。かえって、その姿は卑しく、すべての人よりも衰えていた。彼は打たれた人で、病を負うことを知っていた。彼は卑しめられ、重んじられなかった』（イザヤ五三・二〜三）。一方、第二の来臨は、栄光のうちのものとして宣べ伝えられています。主は、御使いたちの力と父の栄光とともに、天からおいでになるのです。預言者が言うとおりです。『あなたがたは栄光のうちにある王を見る』（イザヤ三三・一七）。また、『わたしは見ていると、人の子のような者が天の雲に乗って来て、日の老いたる者のところまで来た。そして、その前に導かれた。44:2彼に主権と誉れと栄光と国とが与えられ、すべての民、部族、国語の者が彼に仕える。その国は永遠の国であって、滅びることがない』（ダニエル七・一三〜一四）。それと同じように、先駆者も二人示されました。第一の先駆者となったのは、ザカリヤの子ヨハネです。彼は、すべての点でわたしたちの救い主の先駆者となり、また、救い主を宣べ伝える者となりました。世に現れた天の光を、すべての人に福音として告げ知らせたのです。というのも、彼は母の胎内で先駆けをしました。エリサベツが、先に彼を身ごもったのです。それは、まだ母の胎内にいる幼子たちにも、聖霊と処女とによって彼らに与えられる新しい誕生を示すためでした。

45:1彼は、『マリヤのあいさつを聞いて、母の胎内で喜びおどった』のです（ルカ一・四一、四四）。処女の胎内に宿っておられた神の言を見たからです。それから、彼は『荒野で教を宣べて』現れ、民に『悔改めのバプテスマ』を告げ知らせました（マタイ三・一、一一、マルコ一・四、ルカ三・二〜三）。世の荒野で暮らす異邦人に、救いを前もって告げたのです。その後、ヨルダン川で、イスラエルの救い主をその目で見て告げ知らせ、指し示して言いました。『見よ、世の罪を取り除く神の小羊』（ヨハネ一・二九）。45:2このヨハネは、陰府にいる者たちにも先に福音を告げ知らせました。ヘロデに殺されたからです。彼はそこでも先駆者となり、救い主がそこにも下っておいでになることを示しました。救い主は、聖徒たちの魂を死の手から贖い出してくださるのです。

46:1しかし、救い主はすべての人の復活の初穂でした。ですから、主だけが、死人の中からおよみがえりになる必要がありました。この方によって、さばきも全世界に臨みます。それは、ふさわしく競技をした者たちに、この方もふさわしく冠を授けてくださるためです。この方は、すぐれた競技の主催者です。最初に競走にお勝ちになり、天に上げられて、父なる神の右にお座りになり、世の終わりに再びさばき手としてお現れになる方です。46:2この方の先駆者たちは、必ずまず現れなければなりません。主が、使者マラキによってこう仰せになっているとおりです。『主の大いなる輝かしい日が来る前に、わたしはテシベびとエリヤをあなたがたにつかわす。彼は父の心を子に向けさせ、逆らう者に義人の思いを持たせる。これはわたしが来て、地を全く撃つことのないようにするためである』（マラキ四・五〜六、ルカ一・一七）。46:3この二人はともに来て、天からのキリストの現れが来ることを宣べ伝えます。また、しるしと奇跡を行います。せめてそのようにしてでも人々を恥じ入らせ、悔い改めに立ち返らせるためです。人々の不法と不信心が、あまりにはなはだしいからです。

47〜50章　二人の証人と、地から上って来る獣の数

47:1 ヨハネはこう言っています。『そしてわたしは、わたしのふたりの証人に、千二百六十日のあいだ、荒布を着て預言することを許そう』（黙示録一一・三）。これは、ダニエルが言った週の半分のことです。47:2『彼らは、全地の主のみまえに立っている二本のオリブの木、また、二つの燭台である。もし彼らに害を加えようとする者があれば、彼らの口から火が出て、その敵を滅ぼすであろう。もし彼らに害を加えようとする者があれば、その者はこのように殺されねばならない。47:3 預言をしている期間、彼らは、天を閉じて雨を降らせないようにする力を持っている。さらにまた、水を血に変え、何度でも思うままに、あらゆる災害で地を打つ力を持っている。47:4 そして、彼らがその行程とそのあかしを終えると』。預言者は何と言っているでしょうか。『底知れぬ所からのぼって来る獣が、彼らと戦って打ち勝ち、彼らを殺す』（黙示録一一・四〜七）。それは、彼らが反キリストに栄光を帰そうとしないからです。反キリストとは、生え出た小さい角のことです。彼は心が高ぶって、やがて自分を高くし、自分を神としてあがめ始めます。聖徒たちを迫害し、キリストを汚すのです。ダニエルが言っているとおりです。『わたしが、その角を注意して見ていると、見よ、この角には人の目のような目があり、また大きな事を語る口があった。そして、口を開いて神を汚した。また、その角は聖徒たちと戦って、彼らに勝った。ついに獣は殺されて滅び、そのからだは焼かれるために火に渡された』（ダニエル七・八〜一一、二一）。

48:1 しかし、彼についてさらに詳しく述べなければなりません。聖霊が、数によって彼の名さえも、どのように奥義としてお示しになったのかを、です。ですから、彼のことをもっとはっきり述べることにします。ヨハネはこう言っています。『わたしはまた、ほかの獣が地から上って来るのを見た。それには小羊のような角が二つあって、龍のように物を言った。48:2 そして、先の獣の持つすべての権力をその前で働かせた。また、地と地に住む人々に、致命的な傷がいやされた先の獣を拝ませた。48:3 また、大いなるしるしを行って、人々の前で火を天から地に降らせることさえした。さらに、先の獣の前で行うのを許されたしるしで、地に住む人々を惑わし、かつ、つるぎの傷を受けてもなお生きている先の獣の像を造ることを、地に住む人々に命じた。48:4 それから、その獣の像に息を吹き込んで、その獣の像が物を言うことさえできるようにし、また、その獣の像を拝まない者をみな殺させた。48:5 また、小さき者にも、大いなる者にも、富める者にも、貧しき者にも、自由人にも、奴隷にも、すべての人々に、その右の手あるいは額に刻印を押させ、この刻印のない者はみな、物を買うことも売ることもできないようにした。この刻印は、その獣の名、または、その名の数字のことである。48:6 ここに、知恵が必要である。思慮のある者は、獣の数字を解くがよい。その数字とは、人間をさすものである。そして、その数字は六百六十六である』（黙示録一三・一一〜一八）。

49:1 さて、『地から上って来る』獣とは、やがて来る反キリストの王国のことを言っています（黙示録一三・一一）。また、二つの角とは、彼と、彼と共にいるにせ預言者のことです。49:2『小羊のような角が二つ』と言うのは、彼が神の子に自分を似せようとし、自分でも自分を王として示すということです。また、『龍のように物を言った』と言うのは、彼が惑わす者であって、真実な者ではないということです。49:3 また、『そして、先の獣の持つすべての権力を働かせた。また、地と地に住む人々に、致命的な傷がいやされた先の獣を拝ませた』という言葉は、次のことを示しています。それは、彼もまたアウグストの法にならって、同じように命じ、定めるということです。ローマ人の王国も、このアウグストから成り立ちました。彼はすべてを裁可し、それによって自分にいっそう大きな栄光を得るのです。49:4 というのも、これは第四の獣のことだからです。その頭は、倒され、辱められ、十の冠に分かれることで打たれますが、再び癒やされます。こうして、彼は悪賢い者なので、それをいわば癒やし直し、新たにす

るのです。49:5 預言者が『彼は像に息を吹き込み、獣の像は物を言うであろう』と言っているのは、このことだからです（黙示録一三・一五）。というのも、像は、彼が定める法によって、再び働き、力を得るからです。そして彼は、獣の像を拝まない者をみな殺させます。49:6 『ここに、聖徒たちの信仰と忍耐』が現れるでしょう（黙示録一三・一〇、一四・一二）。こう言われているからです。『また、小さき者にも、大いなる者にも、富める者にも、貧しき者にも、自由人にも、奴隷にも、すべての人々に、その右の手あるいは額に刻印を押させ、この刻印、または、その名の数字のない者はみな、物を買うことも売ることもできないようにした』（黙示録一三・一六～一七）。49:7 というのも、彼は欺く者であって、神のしもべたちに対して高ぶります。彼らが自分に栄光を帰さないので、彼らを苦しめて、世から追い出そうとします。そこで、すべての人に、至る所で香をたく台を置くように命じます。聖徒たちのだれも、まずいけにえをささげなければ、物を買うことも売ることもできないようにするためです。49:8 つまり、これが、与えられる『右の手の刻印』です。また、『額に』と言うのは、すべての者が冠をかぶるためです。火の冠、いのちではなく死の冠を、身に着けて歩くのです。49:9 アンティオコス・エピファネスも、ユダヤ人に対して同じようにたくらみました。彼はスリヤの王となった者で、マケドニヤ人アレクサンドロスの家系の出です。彼もまた、そのころ心が高ぶって、布告を書きました。すべての者が戸口の前に祭壇を置いて、いけにえをささげること。つたの冠をかぶって、ディオニュソスのために行列をすること。従おうとしない者は、いけにえの内臓を無理に食べさせ、拷問にかけ、責め苦を加えて殺すこと。そういう布告です。49:10 しかし、彼自身も、主であり、正しくさばき、すべてを見渡しておられる神から、それにふさわしい報いを受けました。同じように責め苦を受けたのです。虫に食われる身となって、この世を去ったからです。これらのことを詳しく調べたい人がいれば、マカバイ記に記されています。

50:1 さて、本題について述べることにします。というのも、彼もまた、これらのことを同じようにたくらむからです。あらゆる点で聖徒たちを苦しめようとするのです。預言者であり使徒である者は、こう言っています。『ここに、思慮が必要である。50:2 知恵のある者は、獣の数字を解くがよい。その数字とは、人間をさすものである。そして、その数字は六百六十六である』（黙示録一三・一八）。さて、彼の名については、幸いなヨハネが悟り、教えられたほど正確に言い表すことは、わたしにはできません。推し量ることができるだけです。彼が現れれば、時が、求めていることを示すからです。50:3 それでも、思い当たるかぎりのことを、確かではないと断ったうえで言いましょう。というのも、名の文字を数として足すと、この数になる名が、たくさん見つかるからです。たとえば、テイタンがそうです。古く、誉れある名です。あるいは、エウアンタスです。これも同じ数になります。ほかにも、もっと多くの名が見つかるでしょう。50:4 しかし、前に言っておいたとおり、先の獣の傷は癒やされ、彼は像に物を言わせます。それはつまり、その獣が力を得たということです。また、今なお支配しているのがラテン人であることは、だれの目にも明らかです。そこで、これを一人の人の名に移すと、ラテイノスとなります。ですから、これが本当に彼の名であると言い広めてはなりません。また、ほかの名ではありえないかもしれないことを、知らずにいてもなりません。むしろ、『きよい心をもって、神の奥義を保ち』、恐れをもって忠実に守らなければなりません（第一テモテ三・九）。幸いな預言者たちが前もって告げたことを、です。それが起こるときに、わたしたちが前もって知っていて、誤らないためです。50:5 時が進むにつれて、これらのことが前もって告げられている当の彼も現れ、その名もすべての人にはっきりと示されるからです。

51〜57章　反キリストの台頭と、しゃこと不義な裁判官のたとえ

51:1 しかし、神の言葉を熱心に学ぶ人々を、これらの言葉だけで説得しないように、ほかの多くの証拠でも示しましょう。ダニエルはこう言っています。『そして、これらの者は彼の手から救われる。エドムとモアブと、アンモンの人々のおもな者である』（ダニエル一一・四一）。51:2というのも、この者たちは、親族であるために彼に加勢し、彼を自分たちの王として示す者たちだからです。エドムはエサウの子孫です。アンモンとモアブは、ロトの二人の娘から生まれた子らで、その子孫は今に至るまで続いています。51:3イザヤもこう言っています。『そして彼らは、異国の人々の船に乗って飛んで行き、海と、日の出るところの人々とを、共にかすめ奪う。まずモアブに手をかけ、アンモンの人々がまず従う』（イザヤ一一・一四）。

52:1 さて、彼は、そのころ、彼らによって立てられます。そして戦いの陣を敷いて、十の角のうちの三つの角に打ち勝ち、それらを根から抜きます。それは、エジプトとリビヤ人とエチオピヤ人のことです。彼は戦利品と分捕り物を取り、残っている七つの角も彼に従います。すると彼は、心が高ぶり、全世界を支配する者として、神に向かって思い上がり始めます。52:2彼の最初の攻撃は、ツロとシドンとその周りの地に向かいます。まずこれらの町を荒らすことで、ほかの町々に恐れを起こさせるからです。イザヤが言っているとおりです。『シドンよ、恥じよ、海は言った。海の力は言った。わたしは苦しまず、また産まなかった。わたしは若い男子を養わず、また処女を育てなかった。このことがエジプトに聞こえるとき、彼らはツロのことで苦しみに捕らえられる』（イザヤ二三・四〜五）。

53:1 愛する者よ、これらのことがこのように起こり、三つの角が彼によって切り倒されると、その後、彼は自分を神として示し始めます。エゼキエルが前もって言ったとおりです。『あなたは心が高ぶって、言った。わたしは神である』（エゼキエル二八・二）。53:2イザヤも同じように言っています。『あなたは心のうちに言った。わたしは天にのぼり、天の星の上にわたしの王座を置く。いと高き者のようになろう、と。しかし今、あなたは陰府に下り、地の基に下る』（イザヤ一四・一三〜一五）。53:3エゼキエルもまた同じように言っています。『それでもなおあなたは、あなたを殺す人々に、わたしは神である、と言うのか。あなたは人であって、神ではない』（エゼキエル二八・九）。

54:1 こうして、これらの言葉によって、彼の部族と、彼が立てられることと、彼が殺されることとが示されました。また、彼の名も奥義として示されました。それでは、彼の行いも見てみましょう。54:2つまり、彼は、離散のあらゆる地から、民をみな自分のもとに呼び寄せます。彼らを自分の子のようにして自分のものにし、彼らの国を元どおりにして、彼らの王国と神殿を再び建てると約束します。彼らに神として拝まれるためです。預言者が言っているとおりです。『彼は、日の出るところから日の沈むところまで、自分の全軍勢を集める。彼が呼んだ者も、呼ばなかった者も、彼とともに行く』[1]。54:3エレミヤもまた、彼についてたとえを用いて、こう言っています。『しゃこが鳴いて、自分が産まなかったものを集めた。公正によらずに自分の富を築き、日々の半ばで見捨てられ、その終わりには愚か者となる』（エレミヤ一七・一一）。

55:1 ですから、本題のために、この生き物の手口を述べても、差し支えないでしょう。また、預言者がこの生き物のたとえを用いてこの言葉を語ったのがむだではなかったことも、述べてよいでしょう。55:2しゃこは、虚栄心の強い生き物です。ほかのしゃこの巣にひながいて、その父親が餌を取りに飛び去っていることがあります。しゃこはそれを近くで見つけると、よその親鳥の声をまねて、ひなを自分のもとに呼び寄せます。ひなたちは、それが自分たちの父親だと思って、そのしゃこのもとに駆け寄ります。55:3しゃこは、他人の子を自分の子のようにして得意になります。けれども、本当の父親が帰って来て、自分の声で呼ぶと、ひなたちはそれと気づきます。そして偽の父親を見捨てて、本当の父親のも

とへ行きます。55:4 預言者は、反キリストについて語るとき、これと同じたとえを用いました。彼は人類を自分のもとに呼び寄せます。他人のものを自分のものにしようとして、すべての人にむなしい贖いを約束します。しかし、自分を救うことはできないのです。

56:1 さて、彼は、いつも神に従わない者であった民を自分のもとに集めると、彼らに願われて、聖徒たちを迫害し始めます。聖徒たちを、彼らの敵であり、彼らを訴える者であるとみなすのです。福音書記者が言っているとおりです。『ある町に、神を恐れず、人を人とも思わぬ裁判官がいた。56:2 ところが、その同じ町にひとりのやもめがいて、彼に、どうぞ、わたしを訴える者をさばいて、わたしを守ってください、と願いつづけた。彼はしばらくの間きき入れないでいたが、そののち、心のうちで考えた。わたしは神をも恐れず、人を人とも思わないが、このやもめがわたしに面倒をかけるから、彼女のためになる裁判をしてやろう』（ルカ一八・二〜五）。

57:1 さて、『不義な裁判官』、つまり『神を恐れず、人を人とも思わぬ』者とは、疑いもなく反キリストのことを言っています（ルカ一八・六、二）。彼は悪魔の子であり、サタンの器です。王となると、神に向かっても思い上がり始めます。まことに『神を恐れず』、すべての者をさばく方である神の子をも、なんとも思わないのです。57:2 また、『その町に』いると言われている『やもめ』とは、エルサレムそのもののことです。エルサレムは本当にやもめです。完全な、天の花婿が、エルサレムをお見捨てになったからです。そして、キリストに不当な仕打ちを受けたかのように、死ぬべき人間に、自分を守るさばきを求めます。こうしてエルサレムは、キリストを救い主とは呼ばず、自分を訴える者と呼ぶのです。預言者エレミヤが言ったことを悟らなかったからです。『彼らが真理に従わなかったので、そのとき、惑わしの霊が、この民とエルサレムとに語る』（エレミヤ四・一一）。57:3 イザヤも同じように言っています。『この民は、ゆるやかに流れるシロアの水を飲もうとせず、かえって、アッスリヤ人の王レヂンを自分たちの上に招き寄せた』（イザヤ八・六〜七）。57:4 イザヤは、反キリストを、象徴としてアッスリヤ人の王と呼んでいるのです。ほかの預言者も言っているとおりです。『そして、これがわたしからの平和となる。アッスリヤ人があなたがたの地に攻め入り、あなたがたの境を踏むときに』（ミカ五・五）。

訳注

1 この引用の出どころは分かっていない。

58〜62章　船にたとえた教会と、太陽を着た女

58:1 モーセもまた同じように、前もって知っていました。民が、まことの『世の救主』を押しのけて捨て、地上の王を選んで惑わしに加わり、天の王を退けるようになることをです（ヨハネ四・四二、第一ヨハネ四・一四）。そこで、こう言っています。『これはわたしのもとに集められ、わたしの倉に封じ込められているではないか。報復の日に、わたしは報いる。また、彼らの足がすべるその時に』（申命記三二・三四〜三五）。58:2 こうして、彼らはあらゆる点ですべりました。何事においても、一致する者とはなりませんでした。真理とも一致しません。律法にもかないません。律法に背く者となったからです。預言者たちにもかないません。預言者たちさえ殺したからです。福音書の声にもかないません。救い主ご自身さえ十字架につけたからです。使徒たちにも従いません。使徒たちさえ迫害して追い出したからです。彼らはいつも、真理に対してたくらみ、真理を裏切る者となりました。神を愛する者ではなく、むしろ神を憎む者となったのです。この者たちは、そのときにも時をとらえ、死ぬべき人間から、自分を守るさばきを受けようと願います。そして、神のしもべたちに向かって立ち上がるのです。58:3 その人間は、彼らにおだてられて高ぶり、聖徒たちに敵対する書状を送り始めます。自分を神として敬い拝もうとしない者を、すべて、どこででも殺させるためです。イザヤが言っているとおりです。『ああ、船の地よ、エチオピヤの川々のかなたの翼よ。海に人質を送り、パピルスの書状を水の上に送る者よ。58:4 速い使者たちが、たけ高い国民へ、また異国の、荒々しい民へ行くからだ。そのかなたに、だれがあろうか。それは望みのない[1]、踏みにじられた国民である』（イザヤ一八・一〜二）。

59:1 しかし、神の子に望みを置くわたしたちは、不信の、悪い人々に踏みにじられ、迫害されています。つまり、『船の翼』とは、諸教会のことです。また、『海』とは世のことです（イザヤ一八・一〜二）。教会はその中で、海原の船のように嵐にもまれますが、滅びはしません。59:2 というのも、教会には、熟練した舵取りであるキリストがともにおられるからです。また教会は、死に打ち勝った戦勝のしるしを、真ん中に立てて運んでいます。主の十字架を、自分とともに担っているのです。59:3 つまり、教会のへさきは東、ともは西のようなもので、船倉は南です。二本の舵は、二つの契約です。張りめぐらされた綱は、教会を締めかためるキリストの愛のようなものです。また教会は、水をくむ道具を備えています。それは『再生の洗い』のようなもので、信じる者たちを新たにします（テトス三・五）。59:4 また教会には、輝く帆があります。それは天からの霊のようなものです。神を信じる者たちは、この霊によって印を押されます。また教会には、鉄の錨もついています。それはキリストご自身の聖なる戒めで、鉄のように強いものです。59:5 また、右にも左にも水夫がいます。それは、そばに仕える聖なる御使いたちのようなものです。教会は、この御使いたちによって、いつも支えられ、守られています。また教会には、高く帆桁まで上るはしごがあります。それはキリストの受難のしるしの像のようなもので、信じる者たちを、天へ上るようにと引き上げます。59:6 また、帆桁の上には、高いところで一つにつながった上の帆があります。それは、キリストの御国に入って憩う、預言者たち、殉教者たち、使徒たちの列のようなものです。

60:1 さて、反抗する者が教会に加える迫害と患難については、ヨハネもこう言っています。『またわたしは、大いなる驚くべきしるしを見た。ひとりの女が太陽を着て、足の下に月を踏み、その頭に十二の星の冠をかぶっていた。この女は子を宿しており、産みの苦しみと悩みとのために、泣き叫んでいた。60:2 龍は、子を産もうとしている女の前に立ち、生れたなら、その子を食い尽そうとかまえていた。女は男の子を産んだが、彼はすべての国民を治めるべき者である。60:3 この子は、神のみもとに、その御座のところに、引き上げられた。女は荒野へ逃げて行った。そこには、彼女が千二百六十日のあいだ養われるように、神の用意された場所があった』（黙示録一二・一〜六）。60:4 『そして龍は、それを見

たとき、男子を産んだ女を追いかけた。しかし、女は荒野に飛んで行くために、大きなわしの二つの翼を与えられた。そしてそこでへびからのがれて、一年、二年、また、半年の間、養われることになっていた。60:5 へびは女の後に水を川のように、口から吐き出して、女をおし流そうとした。しかし、地は女を助けた。すなわち、地はその口を開いて、龍が口から吐き出した川を飲みほした。60:6 龍は、女に対して怒りを発し、女の残りの子ら、すなわち、神の戒めを守り、イエスのあかしを持っている者たちに対して、戦いをいどむために、出て行った』（黙示録一二・一三〜一七）。

61:1 さて、『太陽を着て』いる『女』によって、ヨハネは教会をきわめてはっきりと示しました（黙示録一二・一）。教会は、太陽にまさって輝いておられる父の言を着ているからです。また、『足の下に月を踏み』と言って、天の栄光で月のように飾られた教会を示しました。また、『その頭に十二の星の冠を』かぶっていたと言うのは、十二使徒のことを示しています。教会は、この使徒たちによって建てられたのです。61:2 『この女は子を宿しており、産みの苦しみと悩みとのために、泣き叫んでいた』とあります。これは、教会が、世で不信の者たちに迫害されながらも、心から言を産むことを、いつもやめないということです。61:3 また、『女は男の子を産んだが、彼はすべての国民を治めるべき者である』と言っています。これは、男子であり完全な方であるキリストのことです。この方は神の子であり、神であって人です。預言者たちがこの方を告げ知らせました。教会は、この方をいつも産みながら、すべての国民に教えています。61:4 また、『この子は、神のみもとに、その御座のところに、引き上げられた』とあります。これは、教会によっていつもお生まれになる方が、地上の王ではなく、天の王であるということです。ダビデも、前もってこう告げていました。『主はわが主に言われた。わたしの右に座せよ。わたしがあなたのもろもろの敵をあなたの足台とするまで』（詩篇一一〇・一）。61:5 また、こう言っています。『そして龍は見て、男子を産んだ女を追いかけた。しかし、女は荒野に飛んで行くために、大きなわしの二つの翼を与えられた。そしてそこでへびからのがれて、一年、二年、また、半年の間、養われることになっていた』（黙示録一二・一三〜一四）。61:6 この期間が、『千二百六十日』、すなわち『週の半分』です（黙示録一一・三、ダニエル九・二七）。暴君はこの日々のあいだ支配し、教会を迫害します。教会は『町から町へ』と逃げ、荒野と山々に隠れます（マタイ二三・三四）。教会は、『大きなわしの二つの翼』のほかには、何も持っていません（黙示録一二・一四）。それは、キリスト・イエスへの信仰のことです。キリストは、木の上で聖なる両手をお伸ばしになり、右と左の二つの翼をお広げになりました。そして、ご自分を信じるすべての者をお呼び寄せになり、『めんどりがひなを』覆うように、覆ってくださるのです（マタイ二三・三七、ルカ一三・三四）。61:7 実際、マラキによっても、こう言われています。『わが名を恐れるあなたがたには、義の太陽がのぼり、その翼には、いやす力を備えている』（マラキ四・二）。

62:1 主もこう言っておられます。『荒らす憎むべきものが、聖なる場所に立つのを見たならば（読者よ、悟れ）、そのとき、ユダヤにいる人々は山へ逃げよ。屋上にいる者は、家からものを取り出そうとして下におりるな。畑にいる者は、上着を取りにあとへもどるな。62:2 その日には、身重の女と乳飲み子をもつ女とは、不幸である。その時には、世の初めからかつてなく今後もないような大きな患難が起るからである。もしその期間が縮められないなら、救われる者はひとりもないであろう』（マタイ二四・一五〜二二、マルコ一三・一四〜二〇）。62:3 ダニエルはこう言っています。『そして彼らは、荒らす憎むべきものを、千二百九十日のあいだ置く。耐え忍んで千三百三十五日に至る者は幸いである』（ダニエル一二・一一〜一二）。

訳注

1 写本はみな『望みを置く国民』と読む。

63〜67章　主の現れと、聖徒たちの復活

63:1 また、幸いな使徒パウロは、テサロニケの人々に書き送って、こう言っています。『さて兄弟たちよ。わたしたちの主イエス・キリストの来臨と、わたしたちがみもとに集められることとについて、あなたがたにお願いすることがある。霊により、あるいは言葉により、あるいはわたしたちから出たという手紙によって、主の日はすでにきたとふれまわる者があっても、すぐさま心を動かされたり、あわてたりしてはいけない。63:2 だれがどんな事をしても、それにだまされてはならない。まず背教のことが起り、罪の人、すなわち、滅びの子が現れるにちがいない。彼は、すべて神と呼ばれたり拝まれたりするものに反抗して立ち上がり、自ら神の宮に座して、自分は神だと宣言する。63:3 わたしがまだあなたがたの所にいた時、これらの事をくり返して言ったのを思い出さないのか。そして、あなたがたが知っているとおり、彼が自分に定められた時になってから現れるように、いま彼を阻止しているものがある。不法の秘密の力が、すでに働いているのである。ただそれは、いま阻止している者が取り除かれる時までのことである。63:4 その時になると、不法の者が現れる。この者を、主イエスは口の息をもって殺し、来臨の輝きによって滅ぼすであろう。不法の者が来るのは、サタンの働きによるのであって、あらゆる偽りの力と、しるしと、不思議と、また、あらゆる不義の惑わしとを、滅ぶべき者どもに対して行うためである。彼らが滅びるのは、自分らの救となるべき真理に対する愛を受けいれなかった報いである。63:5 そこで神は、彼らが偽りを信じるように、迷わす力を送り、こうして、真理を信じないで不義を喜んでいたすべての人を、さばくのである』（第二テサロニケ二・一〜一二）。63:6 また、イザヤはこう言っています。『不信心な者は取り除かれよ。主の栄光を見ることのないためである』（イザヤ二六・一〇）。

64:1 こうして、愛する者よ、これらのことが起こります。一週は二つに分けられ、そのとき『荒らす憎むべきもの』が現れます（マタイ二四・一五、マルコ一三・一四）。主の二人の預言者であり先駆者である者たちは、自分の行程を走り終えます。そして全世界は、ついに終わりに向かいます。そうなれば、天からの、わたしたちの主であり救い主である神の子イエス・キリストの現れのほかに、何が残っているでしょうか。わたしたちは、この方に『望みを置いている』のです（第二コリント一・一〇）。この方は、ご自分に従わなかったすべての者に、火で焼き尽くされることと、正しいさばきとを、お下しになります。64:2 というのも、主がこう言っておられるからです。『これらの事が起りはじめたら、身を起し頭をもたげなさい。あなたがたの救が近づいているのだから』（ルカ二一・二八）。また、『あなたがたの頭から、髪の毛一すじでも失われることはない』（ルカ二一・一八、使徒二七・三四）。64:3 『ちょうど、いなずまが東から起って西にまでひらめき渡るように、人の子も現れるであろう。死体のあるところには、はげたかが集まるものである』（マタイ二四・二七〜二八）。64:4 この『死体』、つまり倒れたものは、楽園で生じました。そこでアダムが、欺かれて倒れたからです。主はまた、こうも言っておられます。『そのとき、人の子は御使たちをつかわし、天の四方の風から、その選民を呼び集めるであろう』（マタイ二四・三一）。64:5 ダビデも、主のさばきと現れを前もって告げて、こう言っています。『その出で立ちは天のはてから、そのめぐり行くところは天のはてにまで及ぶ。その熱から身を隠せる者はない』（詩篇一九・六）。64:6 『熱』とは、火で焼き尽くされることを言っています。また、イザヤはこう言っています。『さあ、わが民よ、あなたのへやにはいり、あなたの戸を閉じて、主の怒りの過ぎ去るまで、しばらく隠れよ』（イザヤ二六・二〇）。64:7 パウロも同じように言っています。『神の怒りは、不義をもって神の真理をはばもうとする人間のあらゆる不信心と不法とに対して、天から啓示される』（ローマ一・一八）。

65:1 さて、聖徒たちの復活と御国については、ダニエルがこう言っています。『そして、地のちりの中にいる者のうち、多くの者がよみがえる。ある者は永遠のいのちに、ある者は恥と、限りなき恥辱とに至る』（ダニエル一二・二）。65:2

また、イザヤはこう言っています。『死人はよみがえり、墓の中にいる者は起き上がり、地にいる者は喜ぶ。あなたから出る露は、彼らのいやしだからである』（イザヤ二六・一九）。65:3 主もこう言っておられます。『その日には、多くの者が神の子の声を聞く。そして聞く人は生きるであろう』（ヨハネ五・二五）。預言者もこう言っています。『眠っている者よ、起きなさい。死人のなかから、立ち上がりなさい。そうすれば、キリストがあなたを照すであろう』（エペソ五・一四）。65:4 ヨハネもこう言っています。『この第一の復活にあずかる者は、幸いな者であり、また聖なる者である。この人たちに対しては、第二の死はなんの力もない』（黙示録二〇・六）。『というのは、第二の死は、燃える火の池だからである』（黙示録二〇・一四）。65:5 また、主はこう言っておられます。『そのとき、義人たちは太陽のように輝きわたるであろう』（マタイ一三・四三）。太陽が、その栄光のうちに輝くようにです。そして、聖徒たちにはこうお語りになります。『わたしの父に祝福された人たちよ、さあ、天地が造られる前からあなたがたのために用意されている御国を受けつぎなさい』（マタイ二五・三四）。65:6 では、不法の者たちには、何とお語りになるでしょうか。『のろわれた者どもよ、わたしを離れて、わたしの父が悪魔とその使たちとのために用意された永遠の火にはいってしまえ』（マタイ二五・四一）。65:7 ヨハネもこう言っています。『犬ども、まじないをする者、姦淫を行う者、人殺し、偶像を拝む者、また、偽りを好みかつこれを行う者はみな、外に出されている』（黙示録二二・一五）。『あなたがたの受くべき報いは、地獄の火である』からです（黙示録二一・八）。65:8 イザヤも同じように言っています。『彼らは出て、わたしにそむいた人々のしかばねを見る。そのうじは死なず、その火は消えることがないからである。彼らはすべての肉なる者の見るものとなる』（イザヤ六六・二四）。

66:1 使徒パウロも、義人たちの復活について、テサロニケの人々に書き送って、こう言っています。『兄弟たちよ。眠っている人々については、無知でいてもらいたくない。望みを持たない外の人々のように、あなたがたが悲しむことのないためである。66:2 わたしたちが信じているように、イエスが死んで復活されたからには、同様に神はイエスにあって眠っている人々をも、イエスと一緒に導き出してくださるであろう。わたしたちは主の言葉によって言うが、生きながらえて主の来臨の時まで残るわたしたちが、眠った人々より先になることは、決してないであろう。すなわち、主ご自身が天使のかしらの声と神のラッパの鳴り響くうちに、合図の声で、天から下ってこられる。その時、キリストにあって死んだ人々が、まず最初によみがえり、それから生き残っているわたしたちが、彼らと共に雲に包まれて引き上げられ、空中でキリストに会い、こうして、いつも主と共にいるであろう』（第一テサロニケ四・一三〜一七）。

67:1 わたしの愛する兄弟テオフィロスよ、わたしは主への愛から、これらのことを手短にあなたに差し出します。香りのよい花から汲むように聖書から汲み取り、天の冠に編んだものです。それは、あなたが、書かれていることを信仰をもって守り、これから起こることを前もって見るためです。そして、神に対しても人に対しても責められるところのない者として、自分を保つためです。『祝福に満ちた望み、すなわち、わたしたちの神であり救主である方の出現を待ち望』みながらです（テトス二・一三）。その出現のときに、この方は聖徒たちを復活させてくださり、彼らとともにお喜びになって、父をおたたえになります。この父に、栄光が世々限りなくありますように。アーメン。

このテキストについて

2026年11月23日版

著者　ヒッポリュトス

制作　藤遥

発行　christian-classics-jp

公開　https://christian-classics-jp.github.io/site/hippolytus-on-antichrist/

原稿　https://github.com/christian-classics-jp/site/tree/master/books/hippolytus-on-antichrist

全文を、ギリシア語原文（Περὶ Χριστοῦ καὶ ἀντιχριστου）からAIを使って翻訳しました。

訳文はCC0 1.0で公開しています。引用した聖書の本文は含みません。